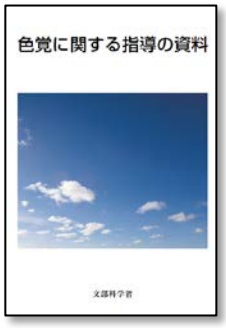
コンシューマー・レポート

紫雲寺小学校　茂呂　良彦

マニアではないですが、割と文房具は好きです。銀座の伊東屋に行くと、１日では出て来られません。



さて、教員の仕事で「まる付け」作業は、現時点で必須です。その「まる付け」には、配慮するべき事があります。

平成４年に学校の健康診断から「色覚検査」が外れました。このとき、文部科学省は、**「色覚に関する指導の資料」**を出しました。

（文科のＷｅｂには存在しないようです。検索すると大阪府のページに存在します。）

そこには、「色覚異常の児童生徒は、暗い所では、細字の赤と黒の識別が難しいことがあるので、採点や添削に際しては、色鉛筆などの太字の朱色等を使用します。」とあり、**「細字の赤ペン・ボーペンは避け、色鉛筆などの太字の朱色を使用します。」**と明記されています。しかし、このことを知らない教員も多いようです。

今年度、採点ペンを充当するにあたって、１０候補をあげ、実際に全てを試して結論を出したので、紹介します。

採点ペン選択にあたって、以下のような要件考えました。

- **導入コストが安価なこと。**
- **ランニングコストが安価なこと。（インク補充できるタイプが良い。）**

知名度が高いのは、ソフトペン赤軸（プラチナ）でしょう。

まとめて購入しても、導コスは６００円程度なので、比較的高価です。この透明軸版があったので、取り寄せてみました。

ソフトペン透明軸（プラチナ）です。こちらも、導コスは６００円程度です。

購入したソフトペン透明軸をよく観察したところ、思わぬ発見をしました。この構造は、プラチナの安価な万年筆と似ているのです。そのシリーズに、チップタイプがないか探したところ、見付けました。

プレピーサインペン（プラチナ）

まとめて購入すると、導コスは１２０円程度です。おためしで使ってもらったところ、先生方の評判も上々でした。１本２８円のインクが使え、先端のチップも５０円以下で替えられます。当校では、これを導入しました、

学校用採点ペン（ウチダ）や、採点用エネージェル（ぺんてる）などもありましたが、実際に使ってみるとインクが出過ぎてスレたり、細過ぎたりしました。

安価で良品を見付けることができたので、しばらくはこれを標準にすることにしました。